

50周年記念事業の概要

1. 記念祭 平成11(1999)年11月6日(土) 午前10時~11時30分
○「樹」(50周年記念作品)演奏 作曲 源田和樹(47期生)
・ピアノのための「記念樹」 ピアノ 島 久美子(49期生)
・バンドのための「そこに吹く風」演奏 The Green Forest(49期生)
小倉あゆみ・郡司祐樹・齋藤雅之・三枝美保子
佐治光雅・野口武之・藤原直美・山下愛麗
・混声合唱曲「優しい歌」指揮 源田和樹
ピアノ 小中慶子(本校教諭)
合唱 2年A組・合唱愛好会・1年A組有志
演奏 吹奏楽部
祝賀会 同日 午後1時~3時30分 於 大田区民プラザ
○看板 デザイン 須永悦子(48期生)
○琴演奏 演奏 琴アンサンブル翼
小谷(佐藤)敬子(15期生)
工藤(小林)能里子(17期生) 他
2. 記念品 50周年記念CD「樹」作曲 源田和樹
ブックレット等 デザイン 須永悦子・武田まいか(48期生)
3. 記念壁画 「Happy」原画デザイン 熊坂茉莉江(49期生)
制作 2年「美術」選択生徒有志
指導 橋本 深・橋本比奈子(本校芸術科講師)
デザイン 須永悦子
垂れ幕 デザイン 村山泰子(49期生)
シンボルマーク デザイン 村山泰子(49期生)
4. 記念誌 表紙デザイン 須永悦子

創立50周年記念祝賀会



中央月日会々長・左端清流会々長・右端 PTA 会長

2002年同窓会の50周年に向けて

月日会々長 田中博隆(六期生)

我等が母校「田園調布高校」は、昨年創立五十周年を迎えました。昨年十一月、記念行事が盛大に行われ、この輝かしい晴れの日を、先生方や新旧保護者の皆様、そして月日会の皆様とともに祝福できましたことを喜んでおります。

この行事開催に当りましては、恩師の先生をはじめ、元保護者の方々、そして月日会会員の皆様から、寄付金並びにご厚情を多数お寄せ頂き、誠にありがとうございました。ご芳名を会報にて報告致し、御礼とさせていただきます。

さて、月日会では、いよいよ来る二〇〇二年の「同窓会の五十周年」に向けて活動を始めております。「同窓会の五十周年」の成功へのステップとしては、まず第一に縦のつながりの強化です。一期から五十期まで、すべての期に月日会の窓口を置いて頂くよう働きかけをして参ります。第二には、ホームページの活用。開設以来少しずつアクセス件数が増えていることは、

月日会五十周年は2002年

大変喜ばしいことです。(一、一〇〇件を超えました。)情報交換、事務連絡等、今後益々の利用が期待される場所です。そして第三には、財団法人田園調布と一致協力して、田園を核とした支援活動を展開してゆくことです。財団とともに母校の発展に寄与することが、ひいては同窓会の充実につながるものと考えます。

現在私が、財団の理事長を務めさせて頂いておりますが、月日会からは、他に役員や幹事が、財団の理事や評議員として活動しております。会員のひとりひとりの力が「同窓会の五十周年」に結集されることを祈っております。今後なお一層のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。田高半世紀に乾杯!

新会員

四十八期生

二百四十二名

月日会員は延一万三千三百八十五名となりました。

連絡可能会員は、約九千八百名です。

祝
創立50周年
都立田園調布高校

田高創立五十周年
盛会裏に終わる

1999年11月6日(土)、母校体育館にて、「田高創立50周年記念祭」が催されました。50周年記念事業(別表)の一環として、生徒が中心に企画したもので、記念壁画の序幕や47期生の源田和樹さんが作曲した「創立50周年記念「樹」」の演奏などが行われました。

午後からは、舞台を大田区民プラザに移して、月日会、PTA、清流会(PTAの同窓会)主催による、祝賀会が、約280人の出席者で盛大に行われました。卒業生を中心にした琴アンサンブ

ルのほか、尺八、ギター、ラテンパーカッション、エレクトーンのすばらしい演奏が披露されました。また、田高茶道部講師(裏千家準教授)の村上宗由氏と田高茶道部による、お茶のコーナーも設けられました。来賓の先生方からは、思い出を中心とした懐かしいお話を伺うことが出来ました。母校の50周年を祝いながら、久しぶりに旧友、恩師と話が弾む楽しい祝賀会となりました。再来年の2002年は、月日会としての50周年記念総会を行います。是非おいでください。



創立五十周年を終えて

第十二代学長 吉田秀男

月日会会員の皆様にはお元気で活躍のことと思います。昨年、本校は五十期生が入学し、十一月には盛大な創立五十周年記念行事を成功裏に終えることができました。

これも偏に、実行委員会を立ち上げての準備の段階から、最後の反省会まで田中博隆会長様を中心に月日会の皆様の献身的なご支援ご協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

本校半世紀の歩みの中で、月日会として本校の教育活動に多大なご尽力をいただき、また、

月日会五十周年へ向けて、寄付のお願い

月日会計 熊谷和巳(三十八期)

会員の皆様には例年、ご協力を頂き有難うございます。前年度は、母校五十周年記念事業への多大な寄付を皆様より賜り、重ねて御礼申し上げます。月日会では来る2002年に、五十期生を迎え同窓会五十周年を迎えます。それを記念して、月日会として記念式典の準備のため、会員の皆様に寄付のご協力をよろしくお願い申し上げます。

多摩



第二次大戦が終結し半世紀余り、そして昨年は我々月日会会員の母校である田園調布高校が大田高等学校として産声を上げてから50周年を迎え、更に、来る2002年には月日会創設50周年を数えることになる。とてもめでたいことである。

筆者は50年も生きていないので、半世紀というものにどんな実感があるかは知るに及ばないのであるが、この半世紀は社会・文化・政治・科学・国際関係等々さまざまな分野において目覚ましい発展を遂げてきた。その発展は日本が欧米各国に追いつけ追い越せという目標で遂げられてきたもので、いわば教科書通りの勉強をしてきたことに他ならないのではないだろうか。しかし今や、その目標がこの半世紀で達せられた感があるように思う。教科書通り(マニュアル)だけでは太刀打ちできなくなってきた。真の勉強、つまり思考を巡らし蓄えた知識を応用すること(学問)がここ最近様々な場面で求められている。今のままの社会や個人の常識や考え方に對し意識の改革を求められていると考えているのは筆者だけののだろうか。(45期生 山田浩一)



「青いレモンの香りとともに」

(十一期生) 鈴木洋子

親愛なる母校の創立五十周年という輝かしい節目に、同窓会員の一人として記念事業の準備などに参画し、先生方やPTAの皆様と喜びをともに出来たことに、改めて幸せを感じております。

長い準備期間には、それぞれの立場での思い入れや事情があった、目的は同じ一つのことなのに、理解出来なかつたり、遠回りしたりしたこともありましたが、学校側の「生徒主体」の方針にも、その実態に時代の隔りを感じざるを得ず、歳月の流れをしみじみ思いました。主旨は充分理解出来たつもりでおりましたが、それらが形となって現れたとき、少なからず戸惑いを覚えたのです。これがまた、準備中に先生越しではなく、直接在校生たちと接点を持つことが出来ていたら、今少し彼らの仕事を理解することが出来たのではないかと思います。いずれにせよ、いかに自分の在校時代が遙か昔のことかを感じ知った機会ともなり、青いレモンの香

りとともに、懐しく蘇って参りました。

ともあれ、記念行事、記念祝賀会ともに、内外の多くのの方々のご参列を得て盛会裏に終了出来たことは、大変喜ばしいことです。そしてまた手元には、田高五十周年の歩みを伝える記念誌があります。

この貴重な経験を礎として、二年後の同窓会の五十周年のための活動を展開してゆけたらと思います。

いろいろな事情で田高が遠くになっていった人も、同窓会が疎遠になっていった人も、この辺で思い出していただいて、懐しい輪を広げて下さい。



田園調布高等学校

開設50周年式典によせて

昭和二十八年卒(二期生) 浅井登美彦



その要素とは、この50年間、絶え間なく後輩が、通称亀の子山の、「田高」に集まってきたこと、歴代校長をはじめ教職員が、それぞれの時代に應じ、各先生の個性に基づいて、知徳をさずけ、共に学ぶ喜びを与えようとされてきたことである。

そして、我々卒業生が抱く一

母校の開設50周年の式典に際し、かつて、縁あって、この学校に学び、その後は南冥の地に、北の涯にと、活躍している、同窓生1万3千余名を、代表いたしまして、一言お祝いを申し上げます。

田高が開設以来50年間の長きを経て、今日を迎えたことは、確かに喜ばしく、おめでたいことであります。

およそ学校が続き、同窓生が、それを喜び、めでたいと思えます。二つの大切な要素と、一つの卒業した者の「想い出」が、あるものと確信いたします。



ヨイショ、ヨイショのかけ声とともに鏡割り

創立50周年記念祝賀会

東京都立田園調布高等学校

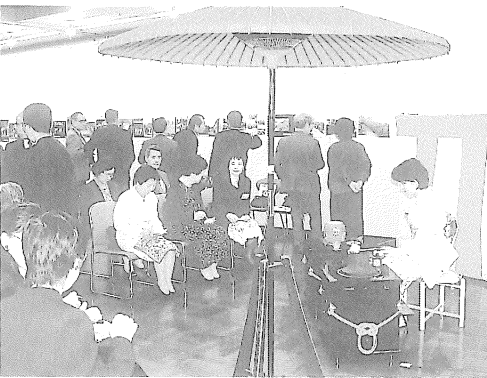


琴と尺八のアンサンブル
小谷恵子(15期生)・工藤乃理子(17期生)出演

幽明境を異にしておられることです。

一期生が昭和二十八年に母校を巣立ってから、五〇年近くがたち、壮年、老境に達した多くの同窓にとつて、論理と理性は、社会の垢にまみれ、天をも動かさんとした情熱は、年齢と共に消えようとしています。田高3年間に培った、ロゴスとパトスの想いだけは、一人一人の胸中に今も残っており、確信しております。

ところで、我が田高の校舎は、創建期の建物はずでなく、その後も伝え聞く所によると、2回改築されていると、わずかに昭和25年当時を想い出させるものは、正面玄関左手の堀沿いの樹木のみであります。



会場内に設けられた茶会・梅田彩子(46期生)協力

田高も50年を経て、既に初期は、歴史の茫漠としたそがれの中に入りつつあります。それを憂う気持ちからで、決して他意はなく祝い寿ぐ気持ちにはいささかも変わり



参加者全員で校歌熱唱

母校50周年記念誌とCDをお分け致します

ご希望の方は、FAXで申し込み下さい。

先着二百名まで。

一部 金、三戸田也

FAX (03) 3748-6780

氏名・住所・郵便番号・電話番号・期を記入して下さい。

そのような場所こそ、田高の誇る、生徒主体の教育実践には必要だという、明確な論理と、やろうとする情熱があれば、多くの困難は乗り越えられると思います。又、このような場所のある田高には、同窓生も、自らの歴史と後輩の活躍を確認するために、50周年と云わず、毎年でも訪ねるでしょう。

このような場所を創ることに、現校長以下の教官各位、月日会役員各位が情熱を持って取り組み、各期の同窓生に声をかければ、多く賛同し、協力するに相違ありません。

お祝いを申し述べるつもりが、老骨の苦言を呈することになってしまいました。

田高も50年を経て、既に初期は、歴史の茫漠としたそがれの中に入りつつあります。それを憂う気持ちからで、決して他意はなく祝い寿ぐ気持ちにはいささかも変わり

代の備品、卒業生の在学中の成績や作品、部活の業績等々を展示するための部屋が、一つ作れないでしょうか。

ありません。

今日は開設50周年おめでとうございます。

Tokyo Metropolitan Denenchofu Senior High School

The 50th Anniversary

1999

(創立50周年記念誌)



田園調布高校 五十周年記念に寄せる

第七代校長 船本治義

田園調布高校は今年、創立五十周年を迎えた。五十年は学校の年齢としては決して長くはないが、二十一世紀にかけて更に、五十年百年と年齢を伸ばしてゆくであろう。しかし、長く存在したから、その学校がいいというわけではない。その中で生徒がみな、よき友達を持ち、よき師について知識、技術を身につけ、他人に迷惑をかけることなく、自分の進むべき道をはっきりと見据えている、そういう学校がよい学校だと私は考える。



船本先生を囲んで

卒業生が有名大学に多く進学する学校というのには間違っていない。田園調布高校は、月日会という立派な同窓会を持

っている。月日会という名前は実にいい名前だ。若き日の芭蕉が多摩川にちなんで読んだ句に由来する。月日会というこの名前は実にいい。私はこの名前が大好きだ。

私事になって恐縮だが、私は自分の出た旧制中学を「ほんとうにいい学校に学んだ」と感謝している。よき先輩、よき友人、よき師に恵まれ、私という人間、人格を作ってくれたのは、あの旧制中学だった。私はあの学校で学んだことを、人生最大の幸せだと心得ている。

田園調布高校の卒業生が、ひとりひとり「自分はいい学校に学んだ」という確かな記憶を持つて月日会の一員となること。それが月日会を充実させ、同時に田園調布高校をよりよき学校に高めてゆくことになる。一つの学校がよくなるか否かは、その同窓会の在り方にかかっている。

五十周年の禪渡します

第十二代教頭 木嶋智恵

私(29期)である森晋一郎教諭が委員長となり、すばらしい企画力を発揮し、中心となって取り組んでくれました。47期卒業の源田和樹氏に作曲を依頼し、それを式典当日生徒達が発表します。ピアノ曲、合唱曲、バンド演奏からなる3曲ですが、それらの曲は源田氏が田高をイメージしたといわれたとおり、田高の雰囲気をよくとらえたものとした。またこの曲を記念品としてCDに収録しました。また一方では、記念美術作品の制作を2年美術選択の生徒で取り組み

ました。ベニヤ4枚分という大作です。本当にぎりぎり間に合いました。指導は、本校美術講師の橋本深氏のご協力をいただきました。現在この作品は、校長室の壁に掛けられております。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りいただいでご覧ください。

月日会の発展は、同時に田園調布高校の発展である。月日会のひとりひとりが、「自分はいい高校で学んだ」という記憶を忘れないように、頑張れ!

いを強く感じました。月日会の皆様には、会の一層の発展と50周年の成功を祈念しております。

PTAと同窓生と 二つの立場でかかわって

(二十期生) 源田真由美

私が五十周年記念行事に関わったのは、まず、平成十年度のPTA会長として、佐藤前会長の後を引き継いだ実行委員長としてでした。実行委員長と言っても、実際には事務的な事柄や司会進行などは学校側でやって下さっていたので、私としては会議に出席することがとりあえずの仕事だったように思います。

実行委員長としての一年間で具体的に決まったのは、記念行事の日にちと祝賀会の会場で、それ以外については大まかな日程と計画が立てられていた程度でした。会場に関しては、大田区民プラザのご好意で、「半年前の抽選」という形を取らずに貸していただけることになり、これは本当に有り難いことでした。

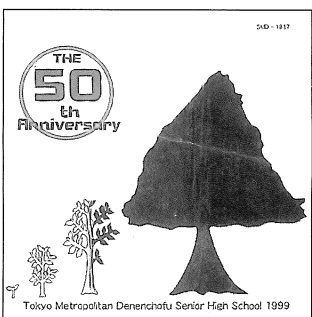
平成十一年度に入る前後に、PTA関係の招待者リストを作ることにになり、とても古く古い資料から最新の名簿までを抱え込んで、歴代のPTA役員の名前と住所を抜き出し、清流会



和やかな雰囲気

創立50周年記念事業決算報告

収入の部		支出の部	
項目	決算	項目	決算
提出金	8,060,000	案内状・封筒・出欠用票	50,715円
祝金	1,343,000	記念誌1,600部	100,800円
雑収入	452	祝賀会次第300部	14,175円
合計	9,403,452	参加者名簿	17,010円
		その他	12,180円
		郵券各種	140,000円
		記念誌原稿依頼他連絡	13,900円
		その他	2,845円
		CD	1,600枚
		記念誌1,200部	2,280,000円
		座談会・写真	14,992円
		CD録音及び当日演奏に関わる諸費用	690,358円
		壁面に関わる諸費用	454,941円
		その他	280,535円
		料理・飲料	919,695円
		樽酒・餅	216,615円
		アトラクションに関わる費用	578,250円
		会場に関わる諸費用	148,389円
		その他	108,994円
		記念誌・記念品用封筒	142,726円
		写真・ビデオ関係	228,585円
		その他	45,095円
		総務会弁当	20,780円
		反省会	178,540円
		解散会補助他	99,769円
		記念品の壇	
予備費	743,820		
合計	8,990,109		



(創立50周年記念CD)

母校50周年への
ご寄付ありがとうございました

元校長 元校長 清成 考 寺島 甲祐 旧職員 戸谷 桂一 小川 成雄 市川 直晴 能村 けい 森本 静子 山崎 和郎 寺久保 勲 大浦 君江 武林 一 村山 アキ 元PTA 永久保初栄 片山 享子 林 あけみ 田中 克美 齊藤 康子 増田 ヒサ 渡辺美寿穂 土橋 潤子 吉田 康子 田中 和恵 小更三千代 赤井シゲ子 加藤かず子 由比 邦枝 1期生 渡辺 亮 杉浦 寛彦 萩原 利春 染野美代子 佐藤 吉正 佐藤 みどり 常盤 彦吉 室 義明 家入 正男 熊田 辰雄	早川 弘一 黒川 慶子 藤枝美保子 河内 迪子 青木 安佐 海老沢良輔 中島 國幸 2期生 樹田 静子 井上 清子 清水 博 佐々木百合子 3期生 宇都 正己 天川 和子 森田 信義 家入 公男 柴崎 公男 松田 淑子 伊藤 泰幸 出村 嘉延 春山 泰男 石川 栄子 4期生 中澤 明子 近藤 昇治 坂本 弘幸 村田美智子 陸田 義晴 渡辺 謹也 澤田扶美子 玉置 昭光 村上 正明 森谷 良子 新井 浩二 大須賀香身 5期生 東里 愛子 大里 堅	深浦 寿子 志村 幸弘 渡辺 セン 伊藤 敬子 並木 敬子 涌井 登代 網井 照高 石川 照子 嶋田 早草 6期生 稲垣 嘉昭 千川 勝重 岡島 邦夫 小川 賢二 石井 博隆 志波 敬彬 大谷 英夫 城谷美保子 7期生 神向寺 慧 門司 宏之 武田 文恵 山田 悦子 三嶋千鶴子 高田 誠 菊池 利治 滝口 保男 新井 義周 金子喜一郎 滝田 保男 浜田千鶴子 昆 吉哉 8期生 山本 京子 小林 里子 藤田 肇 大蔵 正人 塩入 幸子 佐藤 秀樹 橋爪 正子	岩野 光邦 中川 剛 9期生 田中 協一 板倉 勝沼 堀越 節子 簡 敏子 大島 桂子 加藤 浄子 剣持 恭子 10期生 平沢 恂子 松島 秀彦 楠田 昭徳 岩宮 秀雄 石井七保美 中田 泰雄 落合 栄治 太田 亘彦 塩出 敏彦 11期生 鈴木 洋子 豊山ます子 武田 初恵 吾田 千萱 山内 正樹 小谷 誠子 伊東 浩子 相田 純孝 松井 雅美 上野 雅祥 今井 信一 山田 翰弘 佐藤 東樹 12期生 長沢 伸 福田久賀子 倉橋 昌司 中島 光生	草木 キミ 川口 路子 植田 正代 町井 広子 辻川 浩 13期生 加納 民夫 坂本 信代 根立 道子 小林 幸彦 内藤 幸彦 14期生 関根 邦弘 伊藤 城二 青野 良秋 野間 克枝 剣持 悦子 長谷川正春 高橋二美子 蒲生眞紗雄 佐藤 文泰 高山 渡 南雲 睦子 一林 宏斉 田島 照久 鈴木 正博 15期生 伊藤真由美 小林 尉訓 佐藤 良治 伊藤 敬子 16期生 本間 健一 蔵本 武明 石原 元 下村 修一 田村 要一 江尻セツ子 岡野 セツ子 岡野 晴子	秋山 元伸 西澤 章洋 榎並 和子 青田 裕子 福山 泰 吉原 幸和 田中 康夫 18期生 藤川 元 鈴木 勝彦 海老原明子 19期生 仲野 茂雄 20期生 源田真由美 黒川 公雄 前田 健二 大久保昇一 21期生 栖閑 朝子 関澤由美子 平林 茂 篠宮 英一 黒川 公雄 22期生 柴田 遵子 堀籠 幸子 松下由紀夫 浜村 容子 船津 優子 立石 聖子 小林 雅人 片桐 勝人 山本 文子 一ノ瀬和江 鎌田 雅之 品川由美子 23期生 菊池 恵子 窪田みどり 宮下 長利 清水まゆみ 24期生 加藤日佐子 小島 直史	25期生 村井 郁子 手塚美代子 川口 晃 重松 康彦 福井 博 26期生 五十嵐万壽和 小湊 美里 金子 正子 鈴木 勲 足立 和成 山田 玲子 27期生 五十嵐 靖 北村早百合 平林 英子 氏名不記の方 28期生 渡辺 聡哉 高橋 哲也 生方 栄子 遠藤 憲司 平林 容子 29期生 石塚 孝 30期生 西尾 栄 笈川 研 野口 輝行 31期生 塩田 恭一 常松 信之 富塚 孝之 33期生 沢登 弘美 34期生 青池 静江 坂本 悦子 田村久美子 36期生 土橋 徹 辻本亜矢子	37期生 寺嶋さおり 小西 正晃 38期生 永久保紀子 加藤 由枝 熊谷 和巳 小坂 安弘 久保井昭友 39期生 猪股 圭介 山本 隆 41期生 渡辺 直子 今井 大輔 42期生 長田 明子 清住 雄大 43期生 中川 政治 坂本 崇 佐々木志穂 44期生 清水 祐也 玉置 直喜 森下 幸 山崎 秀雄 45期生 芹澤 和茂 46期生 田中 伝 斉藤 隆太 鈴木 昌子 横山 大輔 田口 千穂 47期生 松尾 義洋 亀井 睦美
---	--	---	---	--	---	--	--

月日会への
ご寄付ありがとうございました
平成十一年度分(一九九九)

1期生 藤枝美保子 常盤 彦吉 青木 安佐 小原将司郎 染野美代子 黒川 慶子 家入 正男 2期生 真田 佳子 樹田 静子 清水 博 宇梶 豪 3期生 宇都 正己 松田 淑子 伊藤 泰平 家入 閑子 春山 泰男 4期生 玉置 昭光 森谷 良子 大須賀香身 5期生 涌井 登代 深浦 寿子 伊藤 セン 6期生 小川 明 鶴飼 成子 稲垣 嘉昭 志波 敬彬 石井 賢治 干川 勝重 大谷 英夫 城谷 保子 田中 博隆	7期生 新井 義周 昆 吉哉 菊池 利治 浜田千鶴子 金子喜一郎 8期生 山本 京子 橋爪 正子 岩野 光邦 小林 里子 大蔵 正人 9期生 田中 協一 堀越 節子 簡 敏子 大島 桂子 10期生 落合 栄治 石井七保美 塩出 敏彦 11期生 吾田 千萱 佐藤 東樹 伊東 浩子 山田 翰弘 12期生 中島 光生 草木 キミ 玉谷 正人 辻川 浩 藤谷 之康 13期生 内藤 幸彦 坂本 信代 平本 文夫	14期生 田島 照久 長谷川正春 鈴木 正博 15期生 伊藤真由美 千本 俊江 伊藤 敬子 16期生 江尻セツ子 岡野 実 岡野 晴子 17期生 青山 泰 福地 高和 吉原 幸子 田中 康夫 高田 裕子 清水 秀樹 18期生 鎌松 信之 20期生 前田 健二 大久保昇一 野口 雅敏 21期生 平林 茂 栖閑 朝子 22期生 根本 恭一 柴田 遵子 浜村 容子 黒須 知二 船津 優子 立石 聖子 一ノ瀬和江	23期生 品川由美子 小西 正晃 38期生 小坂 安弘 永久保紀子 41期生 今井 大輔 43期生 中川 政治 坂本 崇 熊谷 宏子 46期 鈴木 昌子 田口 千穂 松尾 義洋 亀井 睦美	24期生 清水まゆみ 25期生 小島 直史 26期生 小湊 美里 27期生 北村早百合 平林 英子 28期生 遠藤 憲司 平林 容子 29期生 石塚 孝 30期生 西尾 研 31期生 萩島 達也 富塚 孝之 33期生 沢登 弘美 熊谷 美喜 36期生 辻本亜矢子 齊藤 達
--	---	---	--	--

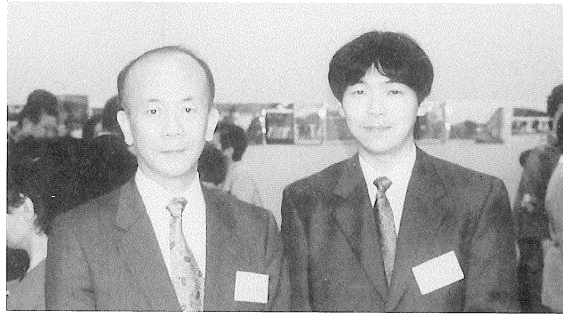
これからもよろしく
応援お願いいたします

(各期共順不同)

幹事会便り

幹事長 林 和紀 (三十三期生)

- 平成十一年度の月日会の活動は、
1. 新入生への校章の贈呈
 2. ぼろにあ祭への参加 (展示及びバザー協賛)
 3. 卒業生への記念品贈呈
- と、例年の活動に加え大きな活動として、母校50周年事業への協力と進めて参りました。



祝賀会にて恩師豊田先生と林幹事長

特に、今回特集を組んだ母校50周年事業への協力は同窓会の総力を挙げて取り組みました。50周年行事当日は、母校での祝う会への列席に加え、懇親会の会場の設置から司会まで幅広くお手伝いさせて頂きました。

懇親会会場の一部に展示した昔の写真には出席された同窓生の方々が懐かしそうにご覧になっていた。同窓生として残念だったのは、懇親会では校歌斉唱がありました。母校で校歌を歌う機会が無かったことです。懇親会での校歌斉唱の時ばかりは、世代の枠を超え会場がひとつになったことを実感しました。

本日に校歌って良いものです。幹事一同、来る2002年の月日会50周年式典においては、校歌の大合唱が出来るように今後ともがんばって行く決意を致しました。会員の皆様も絶大なご協力をお願い致します。

さて、今年度は待望の月日会

月日会

浅田 裕一 (四十五期生)

ホームページ公開する

ホームページ作成の計画が立ち上ってからずいぶん経ちましたが、ようやく公開する事となりました。

さて、現時点でのホームページですが、項目を挙げますと、会長挨拶・常任幹事紹介・月日会会則・月日会会報・連絡先変更手続き・掲示板、となっています。これでは内容的に不十分



ですので、今後の構想として、会報のバックナンバーの掲載、田高メモリアルコーナー (写真等の掲載)、連絡先変更手続きの簡素化、を考えています。会報のバックナンバーに関しては、まず別のメディアでの配布をし、その後順次ホームページ上に掲載という形になると思います。ただし、印刷物をデータ化するとは手間のかかる作業ですので、しばらく時間がかかるかと思われれます。次に、田高

メモリアルコーナーですが、同窓会で所有している写真を掲載するだけでなく、同窓生の方から写真を提供していただき、掲載された写真についても、コメントを寄せていただくように出来ればと考えています。最後の連絡先変更手続きですが、現在の方法ですと往復はがきを使い本人確認を行っており、インターネットのメリットを生かしておりません。今後しばらくは試験運用を続け、良い方法が見つかり次第正式運用としたいと思います。

月日会ホームページは、連絡がとりにくいと思われる同窓生間のコミュニケーションに役立てられるようにしたいと思っています。現在の内容では不満足だとは思いますが、掲示板への

月日会ホームページ：
<http://www.tsukihikai.gr.jp>
管理者メールアドレス：
webmaster@tsukihikai.gr.jp

年会費納入のお願い

会員の皆様には月日会の運営に理解と協力を戴きありがとうございます。

- 本会の主な事業として、
1. 会報発行
 2. 会員の住所管理
 3. 総会の開催
- などがあり、下表の通りの支出となっています。

新入男女比逆転

四月十一日、冷たい風に桜の花片が舞い散る中、平成十二年度の入学式が行われた。少し緊張した面持ちの新入生 (五十一期生) 二十四名のうち、男子一〇五名、女子一三九名と、かつて男子の多かった田高も時の流れか、ここ数年女子の方が多い傾向にある。恒例の管楽部、吹奏楽部の演奏に加え、今年初めて、茶道部による茶席が設けられ、式後の雰囲気より和やかなものになっていた。

平成11年度 会計報告

収入		支出	
前年度繰越金	4,481,243	幹事会費	176,578
		通信事務費	35,220
		会報発行費	1,474,805
卒業生入会金	1,160,000	名簿編集費	109,200
銀行利息等	1,487	月日会50周年総会準備費	200,000
年会費	1,063,450	ぼろにあ祭参加費	10,490
名簿売上	4,500	卒業生記念品費	70,743
寄付	365,500	新入生記念品	78,850
母校50周年協賛金	563,500	勸田園調布寄付	50,000
		ホームページ作成費	430,329
		母校50周年積立金	2,172,000
今年度収入計	3,158,437	今年度支出計	4,798,215
		次年度繰越金	2,841,465
合計	7,639,680	合計	7,639,680

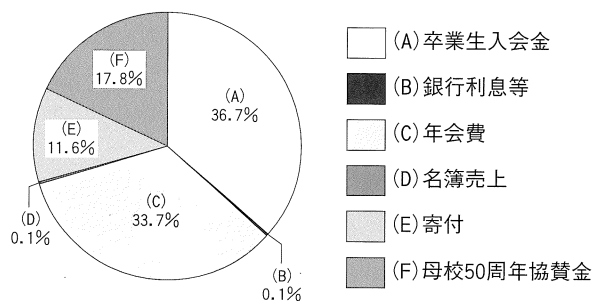
平成12年度 予算案

収入		支出	
前年度繰越金	2,841,465	幹事会費	250,000
		通信事務費	120,000
		会報発行費	1,900,000
卒業生入会金	1,160,000	名簿編集費	150,000
銀行利息等	1,435	月日会50周年総会準備費	200,000
年会費	1,300,000	ぼろにあ祭参加費	50,000
名簿売上	9,000	卒業生記念品費	80,000
寄付	350,000	新入生記念品	80,000
月日会50周年記念誌	350,000	勸田園調布寄付	50,000
母校50周年記念誌	200,000	ホームページ作成費	600,000
今年度収入計	3,370,435	今年度支出計	3,480,000
		次年度繰越金	2,731,900
合計	6,211,900	合計	6,211,900

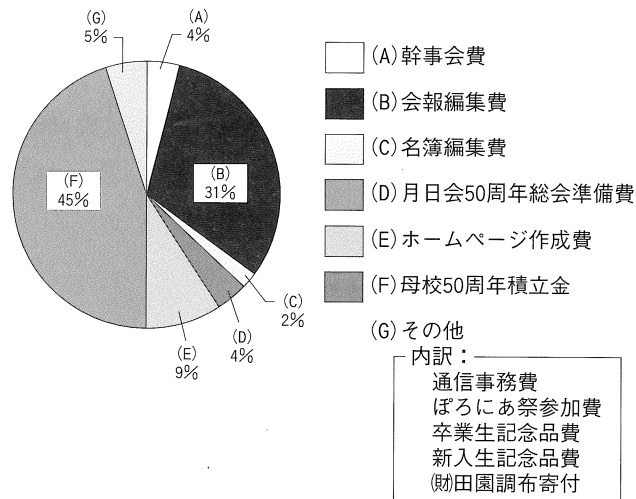
平成十一年度分の月日会収支は表記の通り決算致しましたのでご報告申し上げます。同期会 計 熊谷 和巳 (三十八期)

会計報告

平成11年度収入割合



平成11年度支出割合



平成十一年の度会計報告について適法かつ妥当であることを認めます。あらためて次回総会で報告いたしますが、先に会報でお知らせしておきます。 会計監査 大蔵 正人 (八期) 原 雅裕 (二十九期)

会計監査

近年に於いて一万三千三百八十五名の会員を数えるようになり、卒業生の入会金のみでの会報発行送付は厳しく、平成二年

会則を改正し、年会費制を導入させて頂きました。現在、会報発行時有効に送付される数が凡そ、一万人でその内厚意を寄せて頂く方が、五百人程です。今後、会員数の増加に伴い、現状の収入比率では今後の月日会の運営に心算無さがあり、より一層の年会費の納入率の向上が求められています。そのため、より多くの会員の皆様に年会費納入をお願い申し上げます。

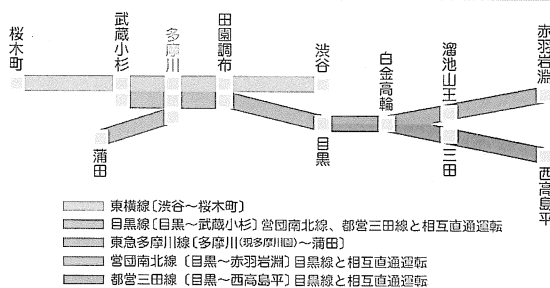
進路状況

48期生の4年制大学進学先

()は指定校推薦、[]は公募推薦で内数

横浜国立	1 [1]	東京都立	1	都立保健科学	1 [1]
神奈川	7 (2)	関東学院	6 (2)	日本	5 (1)
東洋	3 [1]	駒沢	3	桜美林	2 [1]
東京家政学院	2 (1)	青山学院	2 (2)	実践女子	2
東京農業	3	武蔵野女子	2	武蔵	2 (2)
明星	2	立教	2 (2)	工学院	1 (1)
成蹊	1 (1)	洗足学園	1 (1)	中央	1 (1)
東京経済	1 (1)	法政	1 (1)	武蔵工業	1 (1)
明治学院	1 (1)	和光	1 (1)	酪農学園	1 [1]
東京工科	1 [1]	神奈川工科	1	慶応義塾	1
恵泉女子	1	国士館	1	駒沢女子	1
淑徳	1	聖徳	1	聖学院	1
女子栄養	1	女子美術	1	専修	1
鶴見	1	東海	1	東京工芸	1
東京電機	1	明治	1	日本女子体育	1
文教	1	武蔵野音楽	1		
明治学院	1			計	91

通学の足の思い出消える



(東急パンフレットより引用)

田高周辺にお住いの方はすでにご周知のことであると思いますが、目黒線が変更されます。田園調布・多摩川園で二つに分断され、蒲田・多摩川園を多摩川線、目黒・武蔵小杉を目黒線に2000年8月6日より変更になります。事実上東急目黒線の名称が廃止になります。2000年9月26日から目黒線は都営三田線、営団南北線が乗り入れます。そして多摩川園駅は「多摩川駅」に駅名が変わります。この多摩川線は三河編成でワンマン運転になります。田高創立以来田高生の足として活躍した目黒線がなくなってしまうのは名残惜しい気がします。

教職員異動

転出者	異動先	教科目
藤田 隆	永福高	国語
久保 三男	府中西高	数学
望月 典子	玉川高	数学
横手 正和	千歳丘高	物理
桃井 芳徳	目黒高	生物
渡辺ユリ子	大田ろう	事務
中嶋万里子	教育庁	事務
平木 理子	八潮高	事務
西村 由美	退職	英語
松位 節	退職	英語
転入者	前任所属	教科目
床 篤志	新採	国語
細野 久雄	永福高	数学
柄澤 一興	農業高	数学
指田 具孝	永山高	生物
神田 具孝	四谷商高	事務
長谷川 祐子	向島工高	事務
委文 智美	港工高	事務
稲垣 勝美	矢口養護	事務
浦田 康毅	国際高	英語
田中 和子	小山台高	英語

近況

飯田 利行先生
今年で九十歳になりました。腰を痛めましたが元気でおります。新しい本の出版があり、田高の卒業生にも寄稿をお願いしました。来年出版となります。城谷美保子(6期生)
浅野先生の計報にびっくり。担任してくださった40年前を思い月日の経つのが早いと思う。石井氏の記事はよかったです。高村 栄子(14期生 柳下)
山中湖畔でレストハウスをやっています。今年の7月末にはディナーミュージアムを開館する予定です。山中湖近くに来た時にはお立ち寄りください。野田 洋子(17期生)
昨年、夫と死別し、2人の子供と元気に暮らしております。卒業して30年、ESSの活動でも大変お世話になった浅野先生の計報に接し、年月の流れを感じました。野崎 尚俊(24期生)
豊島区立池袋中学校で野球部と柔道部の顧問をしています。昨年久し振りに野球部OBとして田高野球部の応援に行きました。大田スタジアムで吹奏楽部の演奏する校歌をきいて、大変なつくづく感じました。高橋美根子(27期生)
インターネット掲示板より
体育の広瀬先生の厳しい指導のもと、柔道部や剣道部に挟まれてレオタードで乱舞しており、経年ですが、未だ広瀬先生のスタジオリップが目に浮かびます。広瀬先生という関係でいられて嬉しい想いでいます。来る、7月8日(土) 第26回ミネモダンダンススタジオ(広瀬先生主宰) 発表会があります。場所は横浜市南区公会堂(市営地下鉄新田町下車4分)、開演は午後2時30分です。お近くの方、お時間のある方、ダンス部のOGの方、ぜひ足を運ばせて下さい。広瀬先生に元気づけること間違い無いです。發送が、発表会に間に合いませんで申し訳ございません。(編)

15期同期会のおしらせ
日時:平成12年9月24日(日)15:00
場所:センチュリーハイアットホテル(西新宿・都庁前)
会費:9000円
今回は2000年ミネモダン同期会です。3年前よりも多数の参加を願っています。元気な笑顔で再会しましょう。F組 新井國貴 まで
047(452) 5098
047(452) 5098

編集後記

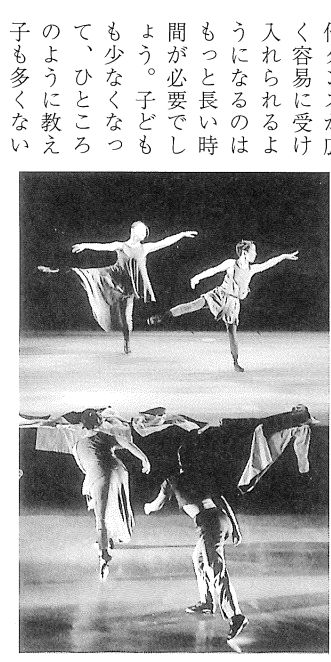
還暦を過ぎても心は田高。とうとう1号から21号までたずさわってしまいました。毎週のよう干渉の皆さんと会ったのが楽しいです。広瀬ミネ子先生ありがとうございました。飯田利行先生も出版を楽しみにしています。(会長 6期生 田中博隆)
30年ぶりに幹事会に復帰して、息子はどの年の違う若い人達に囲まれて、大事にされて楽しくやっています。今回初めて本格的に新聞作りに関わりました。広瀬先生へのインタビューを担当し、先生の創作ダンスへの思い入れや情熱をひしひしと感じました。永年にわたる月日会への理解と協力に心から感謝してお礼を申し上げます。(15期生 千本俊江)
21号会報は、母校50周年記念号として編集しました。その他、特集として名物先生訪問のインタビュー記事の掲載等、伝えたいことがたくさんありました。しかし紙面に限りがある為、可能な限り要約致しましたが、それでも文字が多くなって多少読みづらかったと反省しています。次回は、ビジュアル的な要素をより多く見やすい会報の発行に努める所存でございます。尚、会報の感想や企画提案等ホームページの掲示板に書込んで頂けたら幸いです。最後にありがとうございました。会報発行に際してご協力を頂いた関係者各位に感謝致します。(33期生 熊谷和巳 林和紀)

名物先生訪問



広瀬(松野)先生
昭和36年~55年
体育科

④さっそくですが、私は今神奈川県芸術舞踊協会・理事をやっています。あえて芸術にこだわっているのは、私には表現するということがその人の全部、人間性を含めて全部を肉体を通して表現するのだというポリシーがあるからなの。
⑤先生は長年、地元で創作ダンスを教えていらっしゃるようですが、
⑥そうです。教師生活をやめてから地元で20数年、教えてきました。発表会も25回を数えます。プログラムや衣装も手作りで、その間にダンスを通して多くの発見があり、大勢の子も達に出逢いました。3歳の子もいるのよ。教える子の中には成人
⑦田高の女子は体育の授業で音作り、構成、動きなどをグループで作って発表しましたが、とても大変でした。そういう事が苦手な子もいたりして、
⑧私が在校中に先生が結婚して、新居にもおしかけたりしました。
⑨田高の女子は体育の授業で音作り、構成、動きなどをグループで作って発表しましたが、とても大変でした。そういう事が苦手な子もいたりして、
⑩男子はどうか。
⑪男子はとにかくやさしかった。
⑫そうですね、女子の方が強くて巾をきかせてた。
⑬先生方も個性豊かでユニークな先生が多かったですね。人間の魅力にあふれた先生が。
⑭私も若かったし、皆んなに教えるには自分がまず勉強しなくてはと、一生懸命でした。大変だなんて思わず、教える事が楽しくて楽しくてという時期でしたね。私はダンスを通じて情操教育、人間教育をしようとそればかり考えていました。今の子どもはその辺がなくなって成績の方ばかり気にしている。もった日本のお母さん達は心を教育する事に力を注いで欲しいわね。
⑮先生はこれから、どんな事を目指しますか。
⑯私にはダンスしかないから、これからもダンスを通じて、子ども達を育てていきたいわ。創作ダンスが広く受け入れられるようになれるのもっと長い時間が必要でしょう。子どもも少なくなくて、ひところのように教える子も多くなりたい。
⑰先生は長い時間ありがとうございました。
⑱広瀬先生、初音みね子、鈴木 洋子、千本 俊江



発表会の舞台風景

皆様からのご連絡を!
同窓会活動の提案、会報への投稿、近況報告、訪ね人やバザーの献品等々。
〒一四五〇〇六二
大田区北千束三二四一四〇九
月日会々長 田中博隆
03-3748-1678
03-3748-1678